

<表1> 情意の階層的深化と「国語に対する関心・態度」の評価目標 目標分析I

段階	目標レベル (観点目標)	行動特徴		国語に対する関心・態度の目標例			
		内面的	外面的	段階	言語事項	表現	理解
受 容	<ul style="list-style-type: none"> 適切な場面が与えられれば対象の存在に気づく。 機会が与えられれば対象を避けずにこれに注意を向ける。 教師が意図しているところのものに注意を集中する。 	知覚的 (認知的) 知覚的 (認知的) 熱心に	気づく 注意を向ける 注意を集中する	興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> 分からない文字や語句があると、すぐ友だちや教師に聞こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現のすぐれたところに気づき、発表しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の誘導によって、その答えをさぐるようとする。
反 応	<ul style="list-style-type: none"> 対象に対して自ら進んで何かをしようとする。 対象に対して喜んで反応する。 	自ら進んで 一生懸命に 喜んで	作業する 協力する 参加する 調べる	意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 教材にでてくる文字や語句を辞書を用いて調べようとする。 新しい教材に入ると辞書を利用し、読み方や意味を調べてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく覚えた言葉や表現を、自分の表現活動にも取り入れようとする。 教材文の構成のうまさを、自分の表現活動に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の題名に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。 筆者の意図をさぐるようとして、文章の構造や語句との関連に目を向けようとする。
価 値 付 け	<ul style="list-style-type: none"> 現象・事象に価値があることが分かる。 徐々に価値の内面化が進み、自己の評価基準ができてくる。 	信念をもって 謙虚に	探究する 追求する 改め修正する	習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、その範囲を広げようとする。 言葉の乱れた使われ方に対して、それを正そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現のしかたの工夫が足りないところを見つけ、より効果的にしようとする。 日常生活の中で、目的や内容に応じて適切な表現をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに感想や意見を持ちながら読もうとする。 目的に応じて、必要な本を選び、生活や学習に役立てようとする。

※ この<表1>は、第6学年の学年末の評価目標の例である。

参考資料 ○金井達蔵 小学校「関心・態度」——その理論と指導と評価——